

別紙3	令和3年度	学校関係者評価書	作成日:令和4年2月24日	国分寺市立第三中学校	校長名 岡本 祐治
教育目標: ○自ら学び、よく考える ○進んで協力し、他人を思いやる ○心身ともにたくましく、最後までやりぬく					
目指す学校像: ○生徒が主体的に学び活動する学校 ○教職員が協働して教育活動を創造していく学校 ○保護者や地域社会から信頼される学校					
目指す児童・生徒像: ○自分の夢に向かって意欲的に学ぶ生徒 ○他人のために労を惜しまない心豊かな生徒 ○強い意志と自信をもち、たくましく生きる生徒					
目指す教師像: ○教育に対する熱意と使命感に富む教師 ○一人一人の良さや可能性を引き出せる教師 ○研修意欲に富み互いを高め合う教師					

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	今後の課題	学校関係者評価記入欄
豊かな心と社会性	<p>「豊かな心と社会性を育む。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな情操や規範意識 自他の生命の尊重、他者への思いやり 公共の精神 人間関係を築く力 困難を乗り越え成長し力をつける力 自分のよさや可能性を認識する力 多様な人々と協働する力 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自己肯定感を高め、不登校やいじめ等の課題の解決につながる。 道徳の時間を「自分なりの答え」を見出す時間とし充実を図る。 社会的能力(「自己表現力」「自己コントロール力」「状況判断力」「問題解決力」「親和的能力」「思いやり)」を高める。 	<p>一人一人の良さを見つけ、褒め、認め、励まし、伸ばす指導(コンプリメント)を推進する。</p>	4 100%	4 100%	1 68.2%	2 70.2%	<p>異動してきた教員や新規採用者についても、コンプリメントについて共通理解がすすみつつあるが、今後も具体的な実践の共有をすすめることが課題である。また生徒アンケートで自己肯定感の低い生徒については意図的にコンプリメントを行っていくことは今後も課題である。また自己肯定感を高めるためには、中間での関係者評価での指摘以上に、保護者からの言葉がけが大きな力となるので協力を学校から要請していくことが課題である。</p>	<p>◇伸ばす指導のスコアの低い点は、生徒が自己肯定感をどのように感じているかという評価感に依存するはず。桃李物言わざれどのように控え目な態度をよしとする立場であれば自己アピールは苦手かもしれない。</p> <p>◇中学校という場で「先生に認めてもらえる」または、「自分に目を向けてもらえる」という経験は、その生徒の人生にとって、とても大きなことと思います。</p> <p>◇自己肯定感をもてなくなると自分より弱い人をいじめることで相対的に優位という衝動が芽生える。それがいじめにつながるという意見もある。</p>
			<p>「特別の教科 道徳」は、指導方法を工夫し、「考える道徳」「議論する道徳」を推進する。評価は、生徒の良さを認め意欲につながる評価を行う。</p>	3 85.7%	4 100%	4 86.2%	4 88.1%	<p>ローテーション道徳は生徒にとっては、複数の教員から授業を受けるので様々な刺激を受けることができる。教員にとっては複数回同じ題材で授業を行うので改善点を確認でき、また他の教員の授業を見ることができの研修につながる。今後もこのローテーション授業を授業改善に活かし、教員の授業力向上が課題である。</p>	<p>◇道徳教育については、ローテーションなど色々な模索を通して成果を上げていることを評価したい。</p> <p>◇ローテーション道徳の授業はとても良いと思う。先生にとって良い点もありますが、生徒にとっても、一人ではなく、複数の大人(先生)の道徳観に触れることができよと思っています。</p> <p>◇道徳の授業で、相手の気持ちを思いやる、自他共に尊重、心豊かな道徳感の育成に配慮されたい。このことでいじめの防止に役立っていくところが影響として大きいと思われる。</p> <p>◇ローテーション道徳の授業は道徳という難しい題材を、複数の先生に教わることによって多角的な視点で考えられるよい取組だと思います。</p>
			<p>教育活動の様々な場面で、それぞれの教員の持ち味を活かし、生徒の社会的能力を高める指導を行う。</p>	3 89.3%	4 100%	4 88.4%	4 87.8%	<p>各教員のそれぞれの取り組みが社会的能力の向上にどのようにつながったかを学校全体で共有し学校の財産としていくことが課題である。またコロナ禍で今まで当たり前に行われてきた行事などの取り組みを見直すきっかけになってきたが、この機会をチャンスと捉えその取り組みの社会的能力の向上の上での意義を確認することが課題である。</p>	<p>◇生徒の社会的能力向上については、コロナの不利な状況であっても成果を上げたことを高く評価したい。</p> <p>◇思春期の子どもたちにとって、自己コントロールや自己肯定感を高めることはなかなか思うようにはいかないと思いますが、道徳の授業等で自分の良さ、他人の良さを考え相手を思いやる気持ちにつなげていると良いなと思います。</p>
確かな学力	<p>「基礎力、思考力、実践力をバランスよく育み生徒一人一人に確かな学力を育成する。」</p>	<p>基礎的な知識や技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、学びに向かう力を高める。</p>	<p>ICT機器の活用、1人1台の端末の活用をすすめ、また授業のユニバーサルデザイン化を図り、分ける授業をすすめる。</p>	1 64.3%	4 95.5%	4 90.5%	4 86.6%	<p>教員のタブレット、プロジェクターの活用により、生徒にとってわかりやすい授業につながっている。それに伴うスライド等作成の時間の確保など課題があるので、校内での資料、教材の共有を図り、業務の効率化を図っていくことが課題である。1人1台のタブレットの活用については、今後も先行事例の収集や校内での研修を行っていくことが課題である。</p>	<p>◇ICTは慣れの度合いが大きいので、中間評価から格段に向上したことは当然かもしれないが、教員、生徒の不断の努力の賜物であり、その努力に敬意を表したい。</p> <p>◇オンラインの方が学びやすい生徒もいる。教室では混乱し集中できない、オンライン学習の方が落ち着き理解が深まる。授業として認めていけばよいのではという議論もある。参考的な意見であると思う。</p> <p>◇タブレットの活用をより効果的に検討していく必要があると思います。まだまだ教員の方のタブレット、プロジェクターの使用について使い慣れていないという声も保護者からの声として挙がっていました。またコロナで欠席者が多数だった3学期にオンライン授業などで家での取組が出来たら良いと思いました。</p>
			<p>朝読書、質問教室、補充教室、サポート教室等を実施し励ましや肯定的な声かけ等、個に応じた指導を充実させる。</p>	3 82.1%	4 95.5%	4 87.1%	4 86.3%	<p>今後も質問教室、サポート教室の取り組みを継続していく。サポート教室は、必要とする生徒が多いので、支援員以外の補助的な学生ボランティアの活用もすすめていくことが課題である。また1人1台のタブレットを活用した基礎基本の定着の方法について、効果的な方法を検討することが課題である。</p>	<p>◇ICT向上のポイントは楽しいということです。楽しければさらに新しい使い方、機能やツール、アプリを試してみる。こうした流れが教員間、生徒間に広がれば、益々学習が楽しくなると思います。</p> <p>◇読書は大好き・大嫌いという生徒がいると思いますが、嫌いな生徒にとっては朝読書の時間がとても貴重であると感じます。</p> <p>◇サポート教室は、たくさんの方の力を借りることができると良いと思います。</p> <p>◇確かな学力を身に付ける意味で、現在実施している質問教室や補充教室については取組を継続して行っていただきたい。</p>
学校居心地感	<p>「生徒の学校居心地感を高める。」</p>	<p>生徒の心の居場所、生徒同士のきずなづくりの場所のある環境づくりをすすめる。</p>	<p>生徒の困難さに応じて様々な工夫や手立てを講じる。教科の学習、行事、部活等様々な場面で生徒の学校居心地感を高めるアプローチを行う。</p>	4 100%	4 95.5%	4 89.3%	4 86.4%	<p>これまでと同様に学校居心地感の低い生徒については、意図的に声掛けを行うなど関係を深めていく必要がある。またクラス内や校内での役割分担や部活動などで居場所をつくっていくこともすすめる必要がある。居心地感は自己肯定感ともかわりがあるので、これを高めることからのアプローチも必要である。</p>	<p>◇友達関係、自信のなさ、家庭のこと、いろいろな要素がからんで、学校が楽しくない生徒はいると思いますが、そのことを心において生徒に目を向けることで生徒は救われると思います。</p> <p>◇生徒の学校居心地感の回答では約14%の生徒が居心地の良い場所や時間が、自分の居場所がないと感じていることが今後の課題であると分析コメントのように同感である。</p> <p>◇学校公開や部活の保護者公開などコロナ禍で以前とは異なり縮小されたままの今年度でしたが、三中ブログの更新や副校長先生の講話聞かせ、お昼の放送で先生方の思いの曲紹介など情報発信が充実されていて学校の様子や先生方と生徒の日常が知ることが出来て大変素晴らしいと思いました。こういったことは授業だけでなく、学校生活の楽しさにつながると思いますので、学校居心地感を高めることにもなると思います。</p>
			<p>様々な機会に、生徒に役割をもたせ、生徒に「人の役に立つ力をもっている」ことを自覚させる。</p>	3 89.3%	4 100%	1 58.3%	1 59.3%	<p>自分の行動が「人の役に立っている」ことを自覚できていない生徒もいるので、「ここが、人の役に立っている」ということを伝えていくことが今後も必要である。また中間の関係者評価で指摘にあった、教員からだけでなく生徒同士の「ありがとう」の言葉がけが自然にできる雰囲気づくりもしていくことが課題である。</p>	<p>◇人の役に立つという意識をもつことは、自分が社会の一員であることを自覚することにつながります。中学生は中学生なりに、人の役に立つことで、成長するにつれ、少しずつ大きな役割を担っていくことを学んでいきます。</p> <p>◇友達同士、先生との関係で、自分は一人ではないと感じることができると教員になると思います。</p>